令和３年度小松市立丸内中学校　学校評価２　　（年度末）

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）	取組の成果と課題（年度末・３月提出）
生徒指導	〈恕の心の育成〉 ①豊かな人間性，よりよい人間関係を築く能力を育成する。 ②互いを認め合える集団を育成する。安心して発言できる親和的学級づくりを目指す。 ③安全安心な登下校のための交通ルール，マナーの定着。特に，自転車通学における一時停止徹底の指導に重点を置く。	・挨拶をはじめとする礼儀の基礎基本は身につきつつある。 ・互いに認め合える場面も見られるが，まだ人の目が気になり安心して発言できる雰囲気が作れていないところもあるので，クラスへの声かけ，良い所をその場で認めること，ソーシャルスキルトレーニング等，教師の働きかけを継続して行っていく。 ・交通ルール，マナーについて，丁寧に迅速に対応し，全職員，生徒に周知し，「安心・安全」について繰り返し生徒に伝えることはできたが，まだまだ浸透していないと感じるところもあるので，繰り返し継続した指導を行う。 ・ネットトラブルに関しては，学校でできることに限りがあり，難しさを感じるが，家庭の協力を得ながら，トラブル防止について呼びかけていく。	・クラスや部内といった枠内では互いに認め合う画面が増えたが，その枠を越えると難しい生徒もいる。 ・朝のあいさつ，授業開始のあいさつはおおむね身についている。礼をしたり，「お願いします。」と言うことが慣れからおざなりになる生徒がいるので，全職員の意識をさらに高めることが必要である。 ・安全で安心な学校づくりのために，担任を始め多くの職員が一人一人の生徒に声をかけ，悩みや不安等がないか話をしている。引き続き，生徒の小さな変化に気付くよう，心掛けていきたい。 ・今年度，大きな交通事故はなかった。PTA健全育成委員の方々の登校指導や，部活動がない日の下校指導も例年より多く実施できた。 ・今年度ネットから，いじめや大きなトラブルはなかった。次年度は年度当初にネットトラブルについて，全校生徒に呼びかけと，保護者への協力をはかっていきたい。
道徳教育	＜自主・自律の精神，思いやりと感謝の心を育む＞ ・昨年度の取り組みを土台とし，実践力のさらなる向上を目指す。 ・自己を振り返り，考えることを通して，自らを律する精神を高める。 →毎時間の授業・学期末に行う振り返りの充実 ・「丸中トーク」を通して，多面的・多角的な捉え方や考え方を体感しながら，自分とは異なる捉え方や考え方を受け止める心を育てる。 →「丸中トーク」の効果的な活用	・全校で人権作文に取り組むことで，人権意識を高める活動を行えた。 ・道徳ノートではきちんと考えが書かれているが，意見の交流を苦手とする生徒も見られ，決まったメンバーしか挙手しない。交流の場を設けると共に，話しやすい雰囲気づくりや発問の工夫，全体で授業を作る工夫が必要である。また，「丸中トーク」を効果的に活用していく。 ・振り返りの時間を確保することを通して，子供たちの記述から，考えの広がりや深まりを感じることができた。「丸中トーク」を意識することで，次の発言を頑張ろうと思える生徒も見られた。 ・学年ごとに，全クラスをローテーションする授業を通して，個々の新たな一面を発見し，生徒と教師の関係づくりの一助となっている。今後も継続して取り組んでいく。	・「丸中トーク」に意欲的に参加しようとする様子は見られるが，自分の考えを具体的にもてていない生徒が多い。 ・振り返りの時間をきちんと設けることで，年間を通して子どもたちの考えの変容，深まりが感じられた。 ・ローテンションにより，複数教員が一クラスの道徳を担当していくことで，より多面的に考えることができるようになっていると感じる。 ・自分の考えをもち，発言や記述しやすいような発問，環境づくりに努めていかなければならない。 ・クラスや部の中などの枠内で認め合う場面は増えたが，全体の場ではまだ不安を覚える生徒が多い。授業デザインなど，教師のコーディネート面で話しやすい雰囲気づくりを心がける。 ・子どもたちが考えを交流するツールとしてICTを上手く活用していけないか。匿名性が上がることで自分の意見を交流できる生徒も増えるのではないか。
ＧＩＧＡ	学ぶ心（確かな学力）の育成に向けて、GIGAスクール構想を進め、生徒・教師共にICTスキルの向上に努める ・若手の実践を校内全体に広げる機会を持つ（８月・１月） ・総合的な探究の時間を基軸に共通実践を図り、各教科に広げる。 （自分の考えをまとめる場面について、ノート機能やプレゼン機能等を用いる） ・ＩＣＴが苦手な教員に対し、個別に端末の操作方法を教える機会を適宜設ける。	・ICTを積極的に使用している職員もいれば，苦手な職員もおり，一人一人の意識に差がみられる。効果的な使い方がわからず，模索中の職員もみられ，学校研究とも連携しながら，授業改善に努めて行く必要がある。 ・ICTの苦手な教員にも折をみて，使い方を教えている。実践の交流や使い方を共通理解する場をもつことで，さらにICTを活用した授業を工夫していく。また，研修会で学んだことを共有し，実践にいかしていく。 ・総合的な学習の時間において，頻繁に活用しているので生徒のスキルは向上している。	・Microsoft Teamsの活用やオンライン実証実験、Qubenaの活用など、定期的な校内研修（全職員が対象）を通して、学校全体として少しずつであるが、GIGAに対する意識は高まりつつある。ＩＣＴを積極的に活用している教員が苦手な教員に対し、サポートする場面が見られたり、授業や総合的な学習の時間等での活用が見られるようになった。 ・生徒のICT活用のスキルが高まりつつある。今後は教員側が授業等を通じて、生徒がさらに活用できるよう改善を図る必要がある。 ・ＩＣＴを活用した授業づくりにおける共通実践、学校研究との関連等、学校全体としての取り組みとしては不十分な面も見られた。授業での効果的な活用方法や実践事例などについて、研究部とも連携しながら次年度はさらに計画的かつ組織的に発信していく必要がある。
人材育成	若手教員の指導力向上 学校の日常的な教育活動を基盤として，若手教員の指導力向上を図っていく。 ・校内研修の質的向上及び効果的な実施 ・学校全体でＯＪＴに取り組める雰囲気づくり ・日常的な研修体制の確立 ・校務分掌における若手教員の配置の工夫	・日常的な教育活動を通して，先輩教員から若手教員へのアドバイスを適宜行ったり，悩み相談に応じたりしている。 ・教科部会や研修会を通して，授業づくりの共通理解を図っている。 ・授業交流をする中で，効果的な指導法について学ぶことができるが，互いに授業を見合う時間がなかなか取れない現状も見られる。授業交流の時間を設定することで，意識を高めていく。	・若手教員から「先輩教員に質問したり、悩みを相談したりしやすい環境」であるという意見も多く、学校全体でＯＪＴに取り組める雰囲づくりが構築されつつある。 ・校務分掌において、先輩教員などの配慮もあり、若手教員の仕事の負担が大きくならないようサポート体制ができつつある。 ・校内研修や教科部会等を通じて若手教員が効果的な指導法について学ぶ機会はあるものの、若手による授業交流や授業を見合う時間をつくることがなかなか確保することができなかった。若プロなどの活用や日常的な研修体制の工夫も図りながら、次年度は計画的に授業改善を図る場面を構築していきたい。

学校関係者評価	・ネットトラブルについては，今後も家庭と連携しながら，指導して行く必要がある。 ・人の痛みがわかるような道徳教育の推進が重要である。痛みに耐えている子どものフォロー，言っても良いか，悪いかの判断ができるように言葉や行動に責任をもたせる指導を行ってほしい。 ・心も身体も大きく変化する中学生であるから，思春期特有の心の動きもあるだろう。しかし，美しいものを美しいと言える，言葉を言葉として捉える素直な心を育んでほしい。 ・人と人とのつながりが大切である。人は人と交わって人となる。「聴く力」の育成と相手の気持ちを察して「話す力」，臨機応変に対応できる力の育成が重要である。 ・部活動の友達とのつながりが，将来長く付き合うということにもなり得る。仲間づくり，良い思い出づくりができるように，コロナ禍で制限がある中ではあるが，他を思いやる気持ちを部活や行事などを通して育ててほしい。 ・GIGAスクールの取り組みや部活動の問題など，大変な部分はあるだろうが，若手の先生が多い中，生徒のためにしっかりと頑張ってもらっているので，今後も継続して欲しい。 ・自分の将来の目標を持てている生徒は，どのくらいいるのだろうか。自分で計画を立てて実行することの重要性を身に着けさせ，将来は地域に戻る生徒の育成をしてほしい。 ・小学校でも英語が入ってきている。さらなる英語力の向上に努めてほしい。 ・働き方改革については，業務量もあるかもしれないが，一人一人の意識改革も必要である。